

検査報告書に「溶血」の記載はありませんか？

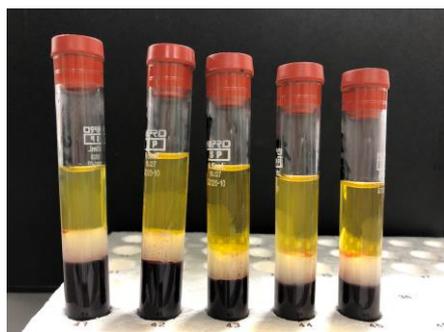
溶血がある場合、検査結果に影響を与える項目がありますので、その旨を報告書に記載しています

溶血とは

血液中の赤血球が何らかの影響で壊れ、赤血球中に含まれる細胞内成分が漏出することです。溶血が起こると、赤血球から漏出した色素（ヘモグロビン）により、血清が赤みがかっている状態になります。

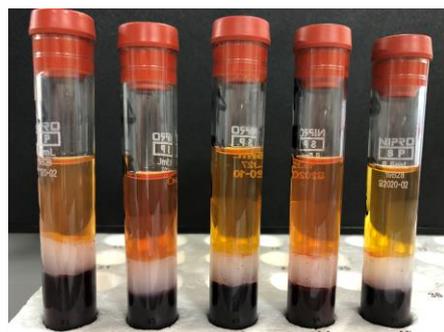
また、採血後すぐに検体を落下させてしまうなど検体に何らかの影響があった場合も溶血が起こり、測定値に影響を与えます。

溶血なし



溶血あり

(150 cmの高さから落下した場合)



溶血の影響を受ける主な項目：高値 K、AST、LD、NH3 低値 BNP

溶血を防ぐためには

- ◇ 皮膚の消毒後は、消毒液が乾燥するまで待つて穿刺を行う
- ◇ シリンジ採血した場合、押し子を強く押さない
- ◇ 23Gより細い針で採血しない
- ◇ 採血した検体を落下させない

採血のポイント

Kは駆血帯で長時間強く圧迫して採血すると、圧迫により細胞内から血液中へ流出したり、採血の際に手を開いて再び握る動作（クレンチング）を行うと筋肉細胞内から流出し、Kの値が上昇します。また、Kは白血球や血小板が異常高値である場合、凝固する過程で流出するためK値が上昇します。（偽性高K血症）